

スワーデーヤ:神聖な教典の朗唱

シュリー・ルドラム

『シュリー・ルドラム』は、神聖なる者の輝く火を象徴するシヴァ神の一つの形であるルドラをたたえる教典です。この火は制限するものを浄化し、ヨーギの中に一体性の意識を取り戻させます。この理由で、ルドラはヨーガの神としても知られています。シュリーは、輝き、吉兆さ、力など——私たちがルドラ神や彼をあがめるこの教典によって連想するあらゆる資質——を意味する敬称です。

バーバ・ムクターナンダは、グルデーヴ・シッダ・ピートゥで 1978 年に、初めて『シュリー・ルドラム』の朗唱をスワーデーヤの日課の一部として取り入れました。

『シュリー・ルドラム』の教典は、『クリシュナ・ヤジュル・ヴェーダ』——インドの最も古い教典である四つのヴェーダの一つ——からきています。『シュリー・ルドラム』は主に二つの部分——「ナマカム」と「チャマカム」——から成っています。

『シュリー・ルドラム』の最初の部分である「ナマカム」では、あいさつ(ナマー)が神の数え切れない側面や属性に対して繰り返しささげられています。「ナマカム」の中に現れるのは、シヴァ・パンチャークシャラ・マントラ、すなわちシヴァ神を敬う 5 音節のマントラ——ナマー・シヴァーヤ——です。これらの音節は、シッダ・ヨーガのグルたちが精神的な伝授のために与えるマントラ——オーム・ナマー・シヴァーヤ——の基盤を形成しています。「ナマカム」を学習することによって、至高なる者の内在的で超越的な本質を学びます。神は、万物の中ですべての姿を取ると同時に、万物を超越して存在しています。

『シュリー・ルドラム』の 2 番目の部分は、「チャマカム」で、その名は「チャ・マー」(祈願の表現)の句からきています。それは、世俗的および精神的な人生に豊かな神の恩恵を呼び起こしながら、それぞれの行で繰り返されます。

インドでは、『シュリー・ルドラム』はヴェーダの火の儀式、ヤグニャの間によくささげられる朗唱の一つです。この神聖な教典のマントラの発音は、それ自体がヤグニャの一種、つまりとても力強い崇拜なので、朗唱する者がヨーガの有益な火を体験する手段となります。

『シュリー・ルドラム』の朗唱は、サンスクリット語のマントラの発音とテンポに注意する必要があります。この努力は、マインドの集中を保つ能力を強化し、スワーデャーヤが終わった後、朗唱する者を滑らかに瞑想へと誘います。このようにして『シュリー・ルドラム』は、探究者が内なるスタミナを高め、思考のより素晴らしい明快さを達成し、自分自身と神との一体性を認識することを助けます。

